

海夫通信 第53号

【海夫】潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦にもかつては多くの海の民がいた。海に寄り添い、潮の流れとともに暮らしていた人たちに思いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

NPO法人霞ヶ浦アカデミー会報



CONTENTS

【特集】大学生が動く、地域と自然のあいだ

【特別寄稿】霞ヶ浦の水中でくらすダンゴムシ（中西康介さん）

【新連載】行け！シラスウナギ（森保文さん）

【コラム】霞ヶ浦湖岸を歩く（浜田篤信さん） 他

特 集

大学生が動く、 地域と自然のあいだ

水辺や生き物、地域のことを、
「守るべきもの」としてだけではなく、
「関わりたくなるもの」として。
いま、大学生たちがそれぞれの場所で、
小さくても確かな一歩を踏み出している。
自然と地域のあいだに立ちながら、
自分たちの関わり方をつくっている2つのストーリーを紹介する。



4ページ、5ページ
眞壁喜一郎。大阪府出身。福井県立大学4年生。2026年5月1日、福井県小浜市に、築123年の町家を改装し、「おばま水族館」をオープンさせた。日本初となる大学生が作った水族館となる。



3ページ、4ページ
亀井裕介。福岡県出身。佐賀大学4年生。生粋の水辺のヲタクであり、推しは1、2ミリの小さな巻貝。高校2年次よりやながわ有明海水族館館長（現在は名誉館長）。日本テレビ「超無敵クラス」では魚を採集するシリーズが20回近く続いた。

「関わること」から、
未来はゆっくり動き出す。

ただただ生き物ヲタクをしている 大学生の話。

佐賀大学農学部
やながわ有明海水族館
亀井裕介氏



図1 少年時代の遊び相手「カジカ」

生き物ヲタクです。よろしくお願ひします。

さて、自分は九州の片田舎に生まれ、決して友達がいなかったからとかではなく、川や山の生き物と遊ぶ少年時代を過ごしてきました。自分からすれば、川の生き物たちは地元の旧友のような存在であり、いわば川は「故郷」です。

また、小学生の後半ごろには水族館にハマリ、自他共に認め親は呆れる水族館ヲタクに化しました。水中は水面という世界線を跨いだ異世界ともいえます。水族館は、その異世界を水槽という世界線越

しに眺められます。その、水族館が持つある種のパラレルワールドのような幻想感に惹かれました。そのために親に頭を下げ、水族館巡りをしている中で辿り着いたのが「やながわ有明海水族館(以下:やな水)」でした。この水族館はサメやイルカはおろか、熱帯魚もない「地味な」水族館です。しかし展示してある生き物の多くは川の生き物、あの「故郷」の生き物たちです。そこで、「川の中にも水族館の世界は広がっている」ことに気づいたので



亀井裕介さんの本



亀井裕介 著『カメスケのかわいい水辺の生き物』(1)~(3)やながわ有明海水族館 発行/花乱社 発売 各巻1,650円(税込)。亀井裕介さんが、柳川の掘割や有明海に暮らす生きものを、写真とかわいいイラストで紹介する図鑑シリーズ。特徴や見分け方、名前の由来、絶滅危惧種や外来種についても楽しく学べます。身近な水辺を歩いて、生きものを探したくなる一冊です。

好奇の対象と地元の遊び場が結びついてしまったのですから、そこから先は悲惨です。暇さえあれば川川川。休日は自転車数を数百キロメートル単位で漕いで川池干潟。魚に限らず、貝に虫に水草、カニなどなど水辺ならなんでもござれの「ヲタクの沼」に沈んでいきました。

しかし遠方ではあるものの、やな水が自分にとって「ヲタクの学校」の役割を果たしてくれ、やな水で生き物を学び、多くの人と繋がらせていただきました。やな水に通っているうちになぜかスタッフになり、気づけば副館長になり、高校2年次にはいつのまにか水族館の館長になっていました。その際は多くの方に注目していただき、各種メディアに出演させていただきました。

生き物の生息地と 生き物ヲタクの生息地を。



図2 やながわ有明海水族館

大学4年となった今は、水族館の館長は引退しています。しかし、元々の才能である生き物ヲタクと、高校の時に培った喋る力を駆使して、講座や観察会など、多くの方に生き物の魅力を伝える活動をさせていただいています。

近年、より大声で叫ばれるようになった自然環境保全には、多方向のアプローチが必要不可欠です。その中で、自分は啓発というところに注力しています。水辺から関心が失われると、水辺の環境は目を向けられなくなり、悪化する一方です。水辺を良くするには、水辺に関

心を向けさせることからだと信じています。

また、多種多様な趣味が渦巻く現代において、己の好奇を発散できる場所は少ないです。彼らヲタクの卵たちの居場所を作ること、明日の自然環境保全への貯蓄となるのではないのでしょうか。

多くの方に生き物や水辺の魅力を伝えること。生き物の生息地と生き物ヲタクの生息地を作ること。このことに人生を懸けたいと思っています。なにより、水辺や生き物に関わるのは楽しいです！

NEXT PAGE

福井県立大学
おばま水族館
眞壁喜一郎氏

初めまして。おばま水族館創設者兼館長の眞壁喜一郎です。今年で22歳、大阪府高槻市出身の福井県立大学4年生です。

2026年5月1日、福井県小浜市に、日本初となる大学生が作った水族館「おばま水族館」をオープンしました。

ここは海、山、川、そして湖に囲まれた最高のロケーションにある、築123年の町家を改装した水族館です。

大学生が町家で始めた
小さな水族館。



■車でお出かけの方
舞鶴若狭自動車道 小浜ICから
県道276号線経由で約10分
■公共交通でお出かけの方
JR小浜駅からタクシー約5分/徒歩約20分

大学生が作った小さな町家水族館、おばま水族館



おばま水族館を 始めた経緯

海のない大阪の山間部で育った私が魚にのめり込んだのは、小学生の夏。砂浜で小さな網を使い、やつとの思いで一匹の魚を捕まえた時の感動が原点です。

大学進学のために福井県小浜市へやってくる、ここには豊かな海や湧き水、溪流があり、淡水魚から外海の魚まで10分以内で獲れる魅力的な環境がありました。しかし、これほど魚に恵まれているのに

小浜には水族館がない。大学で学ぶ養殖などの知識を応用し、

学生たちの「好き」という熱量を地域に還元できれば、きっと面白い場所ができる。そう確信し、一年生の冬から夢に向けて動き出しました。地道な企画書づくりから始め、建築士さんや、私たちの熱意を面白がってくれた物件オーナーとの共同プロジェクトとして、古民家の美しさを活かした木造造りの町家水族館が形になっていきました。

大学生が地域で 水族館をつくること

おばま水族館を運営するのは、全員が海洋生物資源学部の学生です。授業優先のため実験のある日は休館ですが、休館日には総出で海から海水を運び、夜遅くまで楽しそうに作業をしています。

現在、学生メンバーは40人ほど。これは同学年の約4人に1人が関わっていることになりま



水槽の中身が空の時でも配線の位置やコード類の隠し方など、決めることは山のようにあった



出来上がった水槽を講評し合う学生たち

生きものを伝える場づくりで 大切にしていること

私たちが目指すのは、「日本一、住みたいと思える水族館」です。館内は「一学生一水槽システム」となっており、各自が担当の水槽で大好きな世界を表現しています。「なぜその魚に惹かれているのか」という各々の熱い背景があるからこそ、魚との距離が非常に近く、唯一無二の展示が生まれます。一階は「歩いて見る水族館」、2階は静かな町家の空気の中でゆっくり魚を眺め

る「座って見る水族館」です。ただ魚を見るだけでなく、古民家の歴史そのものを感じてもらおう空間づくりを大切にしています。

霞ヶ浦の水中でくらす ダンゴムシ

国立環境研究所
中西 康介

<参考文献>

中西康介・古川真莉子・布村昇・上野隆平(2026) 霞ヶ浦(西浦)における
イソコツブムシ属の分布状況. 水生動物2026:AA2026-53.

ダンゴムシは誰もが一度は見たことがある身近な生き物ではないでしょうか。子どものころ、公園や庭の石をめくって見つけたり、手に乗せて丸くなる様子を楽しんだり、家に持ち帰って飼ってみたりした思い出がある方も多いと思います。では、水の中で暮らすダンゴムシの仲間がいることをご存じでしょうか。実は霞ヶ浦にも、水中で生活するダンゴムシの仲間である「コツブムシ」が生息しています。陸上のダンゴムシのような完全な球状にはなりませんが、手でつかむと体を丸める様子は、まさに「水中のダンゴムシ」です。

2026年1月、霞ヶ浦アカデミーの活動の一環で、行方市のビオトープ造成予定地周辺の生物調査を行ったところ、霞ヶ浦のヨシ帯からコツブムシの一種が採集されました。コツブムシの仲間は種類が多く、種類を見分けることは簡単ではありません。肢(あし)の形や毛の数などを詳しく調べる必要があります。そこで、等脚目(コツブムシ、ダンゴムシ、ワラジムシなどを含むグループ)の分類の専門家である布村昇氏(金沢大学)に標本を送り、詳しく同定していただいたところ、採集された個体はシナコツブムシ(キスイコツブムシ) *Gnorimosphaeroma chinense* であることがわかりました。

これまで霞ヶ浦からは、シナコツブムシにくわえ、チョウセンコツブムシ *G. naktongense* とヨツバコツブムシ *Sphaeroma retrolaevis* の計3種類のコツブムシが記録されていました。しかし、その記録はいずれも20年以上前のものであり、現在、どこにどのような種類のコツブムシが生息しているのかは、ほとんどわかっていませんでした。そこで、霞ヶ浦(西浦)の



湖岸24地点で、ヨシ帯などをたも網ですくい取り、コツブムシの分布を調べました。その結果、15地点でシナコツブムシの分布を確認することができました。一方、過去に記録されていた他の2種類のコツブムシは見つかりませんでした。

霞ヶ浦アカデミーの活動をきっかけに、これまでほとんど注目されていなかった霞ヶ浦のコツブムシの現状が少しずつ明らかになってきました。シナコツブムシは1 cmにも満たない小さな生き物ですが、湖底やヨシなどに付着した有機物を食べる「分解者」として、霞ヶ浦の生態系を支える重要な役割を担っている可能性があります。今後、どのような環境に多く生息しているのか、どのような生活を送っているのかなど、詳しく調べる必要があります。みなさんも、霞ヶ浦の湖畔を訪れたときには、ぜひ「水中のダンゴムシ」にも思いをはせてみてください。

講演会 「ニホンウナギ復活大作戦」を開催しました



講演会での主なテーマ

- ・どこで生まれ、どのように霞ヶ浦にくるのか
- ・放流はどんな役割を持つのか
- ・効果的なシラスウナギ放流の方法はあるのか

5月17日、行方市玉造公民館にて、講演会「ニホンウナギ復活大作戦」を開催し、15名の方にご参加いただきました。

講師:

- ・水産研究・教育機構 水産資源研究所 横内一樹 先生
(ニホンウナギの回遊、最新の研究成果の話題など)
- ・同 福田野歩人 先生(シラスウナギの放流方法など)

身近な霞ヶ浦から、全国的なウナギの資源問題までを学び考える時間になりました。

霞ヶ浦アカデミーは今後も水辺や生き物、地域の暮らしについて学ぶ機会を続けていきたいと思っています。

霞ヶ浦湖岸を歩く



浜田篤信

東北大学農学部修士課程修了(海洋学専攻)。農学博士。
東北大学助手を経て、茨城県水産試験場内水面試験場に勤務。茨城県内水面水産試験場長として活躍後、(有)霞ヶ浦生態系研究所を設立。霞ヶ浦アカデミー監事。

霞ヶ浦大橋からの眺め、
いつも美しい

5月13日晴れ、霞ヶ浦湖岸を歩いた。霞ヶ浦大橋からの眺めは、いつも美しい。橋上からの湖水も、美しい。

橋下の湖岸に小型魚の魚群発見。ハク(ボラの稚魚)かな?と思ったが、動きが違う。ハクは湖底に付着した有機物を食むが、この魚群は水面に浮かんだゴミ状の物を食んでいる。ワカサギの稚魚では、ひよつとすると今年、ワカサギ豊漁? 投網があれば確認できたのに残念。

ナンだ夢か、ユメでゴメン

昨夜の夢、わたしは、夜の湖岸の砂浜に立っている。暗闇から網を持った人の乗った船が、次から次へと、こちらに向かってやってくる。ワカサギがたくさんいるので網ですくっているのだ。

投網があれば、ボクもとれるのに、残念。

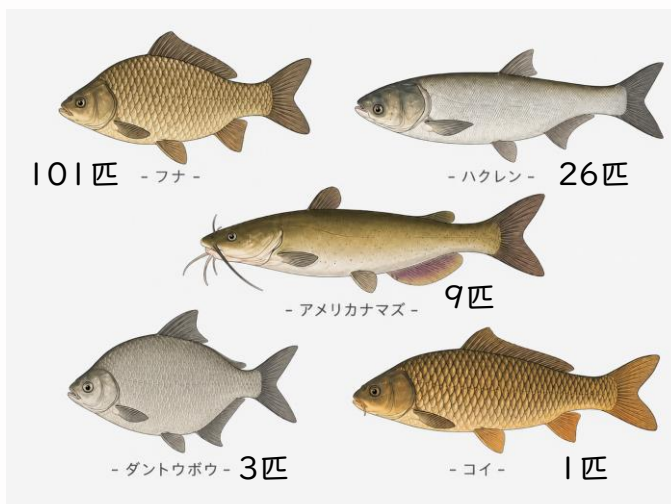
7月21日、ワカサギ解禁、今年もワカサギ不漁らしい、昨日のスーパーには鮮度のいいシラウオが並んでいたが、ワカサギは輸入品、買わなかった。

高浜へ

張網が数か所で見られた。張網をみることできてホントよかった。皆無の時代もあったのだから。でも、何をとるのだろうか? 船溜まりのバケツには、チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)が入っている。これかあ、魚粉にしてペットの餌になるのかな。

船溜まりの周りに砂が溜まっていて、その小さな砂浜にはゴミが打ち上げられている。その中に魚類の死骸もみられるが、カメ類の死骸発見。カメの死骸を1か所数個体見たのは、ボク生まれて初めて。どうしたことだろうか?

魚をしらべる



これは5月13日、沖洲地先の人工砂浜50メートル間に打ち上げられていた各種の個体数だ。

この時期に、産卵を終えたフナの死体を見るのはめずらしいことではないが、これだけの種の死骸に出会うのも希だ。これは、「歴史的不漁」に係しているにちがいない、しゆくだい、宿題。

霞ヶ浦大橋から浮島を望む

銚田市鹿田と行方市玉造を結ぶ県道116号線を車で走っていると、芹沢付近で欄干に河童の像がある橋に



◀手奪橋

さしかかります。梶無川にかけられた「手奪橋」です。「手奪」とはおだやかでない橋名ですが、この地に伝わる次のような民話が由来となっています。時は、室町時代から戦国時代へ移ろうとしていた頃。領内の見廻りを終えた芹沢の殿様が、この橋の中ほどにさしかかったところ、童のような何者か(河童)に馬の尾をひっぱられ、川に引きずり込まれそうになりました。殿様は、悪さをする河童を懲らしめてやろうと刀で切りつけます。河童は悲鳴を上げて川の中へ。殿様がお屋敷にもどると、馬の尾には河童の腕がぶら下がっていました。

その夜、屋敷を訪れた河童は、殿様に懇願して腕を返してもらい、おわびに傷に効くという妙薬の作り方を伝授しました。傷薬は芹沢家で代々伝えられ、多くの人を救いました。また、河童はお屋敷に、毎日魚を届けることも約束し、自身が死ぬまで続けます。河童は後に手接明神として祀られました。



▲欄干の河童像

いつもは通りすぎてしまう手奪橋を、初夏の夕暮れ時に訪れました。辺りは田が広がるばかりで人影はなく、車もほとんど通りません。橋の途中で立ち止まり川をのぞき込むと、浅瀬で水かさもないのに、引きこまれるような感じになりました。

ともすれば、忘れ去られそうになる民話や言い伝え。手奪橋の欄干に鎮座する河童は、静かに今の世に語りかけています。

かすみがうら れきしさんぽ

霞ヶ浦 歴史散歩

6

川に現れる妖怪、河童。その伝説や物語は全国各地に伝わっており、行方にも霞ヶ浦に注ぐ梶無川(かじなしがわ)を舞台にした「河童の恩返し伝説」があります。今回は、そんな河童伝説の地「手奪橋」を訪ねます。



Writer Saiki・H

プロフィール：鹿行地区在住。
地域のイベントなどを取材し、紹介しています。

海夫通信

フォローして

最新情報を受け取ろう!

活動の様子やイベント情報、コラムなどをお届けします。



Follow us on
Instagram

活動の様子やイベント情報などを
写真や動画でお届け!



Follow us on
Facebookページ

お知らせやコラム、活動報告など
最新情報を発信中!

会員募集

NPO法人霞ヶ浦アカデミーは、みなさまのご支援により活動を継続できています。活動を共にしてくれる、また応援してくれる会員を募集しています。ご協力よろしくお願いいたします。

普通会員 入会金 1,000円 / 年会費 3,000円

賛助会員 1口 10,000円

[入会の方法]氏名、住所、連絡先、会員の種類をご記載の上、お気軽にメールください

メールアドレス kasumigaura.academy@gmail.com



Writer 西谷 篤彦
元大学病院薬剤部・(独)医薬品医療機器総合機構勤務薬剤師。霞ヶ浦アカデミーの会員で、故郷の環境保全、地方活性化を願いつつ横浜と霞ヶ浦の家との二地域居住生活が続いている。



京浜臨海地区のビオトープ(Biotop)

4月からの連休中にアメリカから友人が来日しました。その友人は日本の自然、食文化がとても好きでキリンビール横浜工場見学を希望されたので、案内しました。

キリンビール横浜工場は横浜市鶴見区生麦に建っていて工場見学した後、周りの新緑の美しい敷地内を散策しました。そこには約190平方メートルのビオトープがありました。

ビオトープ(Biotop)とは、メダカや水草、昆虫などの野生生物が本来の自然の姿で生息・生育できる空間のことです。ドイツ語の「Bio(命)」と「Top(場所)」を組み合わせた言葉で、庭やベランダに作った小さな水辺空間から、森や池などの広大な自然環境までを指します。

実はここは2019年9月7・8日全国トンボ市民サミット横浜大会のエクスカージョンで見学したことがある場所でした。当時の説明でトンボは環境を見る指標になるといわれていて、そのために工場敷地内にトンボが飛び交うビオトープを作って、京浜臨海工業地帯の中でも野生生物が共存・共生できる環境を保全・創出して、地域の本来の自然環境(在来種)を守る自然豊かな場所を確保していることに感銘を受けました。



写真:キリンビール横浜工場のビオトープ案内板

キリンビール株式会社はCSV(共通価値の創造: Creating Shared Value)に力を入れていて都市の環境再生、都市の中の生物多様性の保全・再生に取り組んできています。CSV経営とは、企業が本業を通じて社会課題を解決しながら、社会的価値と経済的価値(利益)の双方を同時に高めることを目指す経営手法のことです。「コストのかかる社会貢献」ではなく、事業戦略そのものとして社会課題をビジネス機会に変える点が特徴です。

先日訪れたときはビオトープの周辺は新たに整備された緑地に蝶が舞う緑のビオトープの看板がありました。横浜にいらっしゃる機会がありましたら、生ビールのテイスティング付き工場見学と緑地ビオトープを訪ねてみてください。



カヌークラブから

行方カヌークラブHP



2026.06.07高須崎~天王崎

本日は、ひたすら漕ぐ練習です。
霞ヶ浦を高須崎から天王崎まで往復。
風は弱く、しかも東風で波はおだやかで、いい条件でした。
いや~疲れた。



丹沢湖の大会で2人とも入賞!

7月5日、神奈川県山北町の丹沢湖で「第26回カヌー・SUPマラソンIN丹沢湖」が開催され、行方カヌークラブから2人が出場しました。森林に囲まれた湖を舞台に、5キロと10キロのコースで競う大会です。1998年に山北町で開催された「かながわ・ゆめ国体」のカヌー競技をきっかけに始まり、カヌーの普及と地域振興を目的に続けられています。今回、クラブから参加した2人は、日頃の練習の成果を発揮し、そろって見事入賞しました。霞ヶ浦とは違う自然環境の中で漕ぎ、他地域の選手と競う貴重な機会となりました。おめでとうございます!

行け！シラスウナギ

—魚道改善物語—
森 保文

常陸川水門

魚道

2022年から霞ヶ浦アカデミーは常陸川水門魚道の撮影をしている。その過程で、シラスウナギが霞ヶ浦へ入ることを阻害している六つの問題が判明した。果たして問題を解消して、シラスウナギを霞ヶ浦へ招き入れることはできるのか？これまでの経過を連載して報告する。

はじめに

2025（令和7）年3月31日午前3時、水中に差し入れた撮影カメラの照明に、上流に向かって泳ぐシラスウナギが次々に浮かび上がった。魚道の運用改善の一部が間に合ったことを示していて、ほっとした。魚道でシラスウナギの撮影を始めたのは2022（令和4）年5月なので、遡上する多くのシラスウナギを見るまでにほぼ3年かかったことになる。シラスウナギとはウナギの稚魚のことではあるが、グアム島付近から黒潮に乗って霞ヶ浦までやってきたのだ。黒潮の蛇行がおさまったためと推定されているが、2025年はシラスウナギがここ数年で最も多い年となった。多いといっても百分の一になつていったものが、百分の二になつただけであるが、ともかくシラスウナギが多くなる直前に魚道の改善ができたのだ。

常陸川水門魚道

ここで少し常陸川水門魚道について説明する必要がある。霞ヶ浦は利根川を通じて海とつながっていて、海水が出たり入ったりする汽水湖だったが、霞ヶ浦の最下流、利根川との合流地点の直前に常陸川水門、通称逆水門が建設された（図1）。1963（昭和38）年に完成し、1975（昭和50）年から利根川を遡上してくる海水を霞ヶ浦に入れない淡水化とその淡水を貯める水位管理が実施され、水門は完全に閉じられることとなった。これにより海からやってくる魚は霞ヶ浦に入れなくなった。このことを問題とした多くの漁業協同組合や市民団体の活動により、2010（平成22）年によく魚道が設置された（表題写真）。誤解している人が多いのだが、この常陸川水門魚道は常に開いているわけではない。この魚道にも水門（ゲート）があり、

海水を上流に入れないために、上流の霞ヶ浦側の水位が下流の海側の水位より高い時だけ、ゲートが開いて水が流れる運用となっている。つまり限られた時間のみ生き物が魚道を通ることができ、しかも流れは上流から下流への一方通行である（図2と3）。小さい逆水門をも一つ作っただけともいえる。

六つの問題

この常陸川魚道の運用には六つの問題点があることを、撮影作業を通して発見した。一つは水位計のずれである。運用のルールは当初、上流が下流より10センチ高い時（水位差10センチ）に魚道のゲートが開き、下流側の水位が下がってきた後上がってきた水位差30センチで閉じ、下流がさらに上がって後下がってきた再び上流より10センチ低くなって開くとなつていった。つまり下流の水位が上流より10センチから30センチ以上低い時のみ開く。この時の流れは速く、海側から生物が遡上するのは難しい。しかも開くのは昼間のみで夜間は閉じることになっていった。さすがにこれではまずいということになったのだらう、2022（令和4）年度から水位差10センチで開くのは同じだが、水位差0センチで閉じ、夜間も開くルールとなった。つまり下流の水位が上昇して上流と下流の水位が同じになって流れがなくなるまでは魚道が開いていることになったはずだった。しかし実際は違っていたのである。原因は水位計にあった。

魚道の撮影の準備のため、常陸川水門の管理事務所魚道の操作予定などを教えてもらっている時に、奇妙なことに気が付いた。操作のモニターには、河川の水位などが表示されているのだが、本来等しいはずの河川の上流の水位の値と

魚道の出口（上流）の水位の値が異なっており、同じように河川の下流の水位と魚道入口（下流）の水位の値が異なっていた。魚道上流側の水位表示は河川上流側の水位より10センチ高く、魚道下流側の水位表示は河川下流側の水位より15センチ高かった。これでは、魚道上流側の水位は本来の水位より常に10センチ高く、下流側は常に15センチ高く魚道運用システムに入力されていることになり、水位差0センチまで魚道を開いているつもりが、実は水位差5センチで水門を閉じていることになる。実際に撮影の時には、流れがかなりあるにもかかわらず魚道が閉じていた。

常陸川水門はここ



図1 常陸川水門の場所

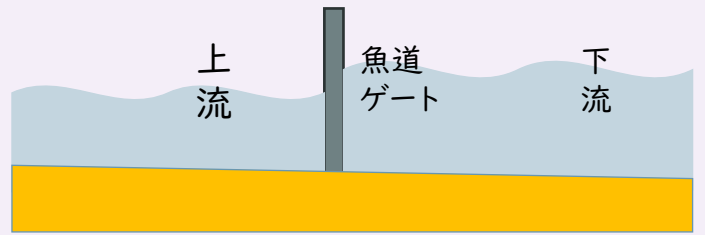


図2 下流水位が高い時はゲートは閉じている

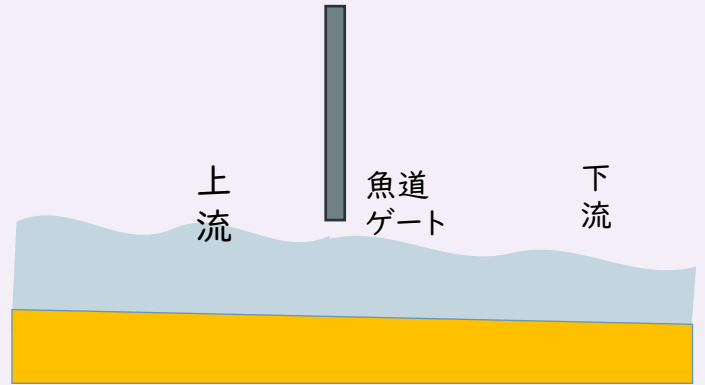


図3 下流水位が低い時のみゲートは開く

第二の問題は、この水位計のずれにも関係するのだが、魚道上流側の水位がYPI・3メートルを一瞬でも超えると、魚道を閉じるルールになっていることである。常陸川水門は霞ヶ浦の水位をYPI・3からYPI・3メートルで管理している。風が吹いて波が立つと、水位は簡単に10センチぐらいは上下する。さらに水位計にずれがあるので、実際にはYPI・2メートルであっても運用システムはYPI・3メートルと認識している、簡単に魚道は閉じてしまう。昼間であれば係員の方が魚道の水位表示がYPI・3メートル以下になったことを確認して再度魚道を開く操作ができるが、夜間は一度閉じれば、朝に係の方が出勤して気づくまで閉じたままとなる。

第三の問題は、常陸川水門が開いた日には、魚道を終日閉じることである。大雨が降って霞ヶ浦の水位が上昇した時は、常陸川水門を開いて水を流して水位を下げる。よほどの大雨でない限り、常陸川水門を開くのは昼間のみの状態で、夕方には水位が十分に下がった状態になる。にもかかわらず、魚道は夜間も閉じたままとなる。

第四の問題は、引き潮で水位が下がってくる時に、水位差10センチでゲートを開く設定である。ゲートの下流側に滞留していた魚たちは、ゲートが開いた時の速い流れに耐えられず、押し流され上流へ行くことができない。

第五の問題は、下流の水位がYPO・06メートル以下になると、

なぜかゲートが閉じることである。大潮の時には潮も満ち引きが大きくなるので、干潮の時には、しばしば水位はYPO・06メートルより下がる。昼間であれば、徐々に水位が上がってYPO・06メートルを超えた時に係員さんがゲートを開けることができるが、夜間は閉じたままとなる。シラスウナギは大潮の夜間の上ってくるので、肝心の時にゲートが閉じていることになる。

第六の問題は、最も大きな問題で下流の水位が上流より高い時にゲートが閉じることである。シラスウナギは上げ潮に乗って上ってくるので、多くのシラスウナギが上ってきた時にはすでにゲートが閉じてしまっている。これは海水を上流に入れないためだが、後で述べるように海水を入れずにシラスウナギを通す方法があり、これを我々は国土交通省に提案している。

シラスウナギは泳ぐ力が弱く、夜間に上げ潮に乗って霞ヶ浦へ上ってくる。魚道の流れが速いことや夜間に水門が閉じていることは、シラスウナギの遡上にとって致命的である。シラスウナギは成長するとクロコとなり、その後ウナギとなる。クロコになると泳ぐ力は強くなるが、霞ヶ浦に入らなかったシラスウナギの多くはクロコになる前に他の魚に食べられるなどして死んでしまう。

撮影前夜

魚道の撮影を霞ヶ浦アカデミーで考え始めたのは、2020（令和2）年2月16日に霞ヶ浦環境科学センターで開いた霞ヶ浦導水事業についての座談会だった気がする。監事の浜田篤信さんが霞ヶ浦のウナギの話をされて、その中で常陸川水門魚道についても触れられた。そこで魚道を通るシラスウナギの観察会をしてはどうかと提案した。国土交通省のHPを見て、2019（平成31）年3月の国土交通省の魚道についての検討会で、今後の予定として夜間を含めた自動運転を行うことになったのを知っていたが（国土交通省 関東地方整備局 常陸川水門魚道試験運用検討会第3回検討会資料2

019年3月8日）、ほぼ1年たっているのに夜間に開いているという話を聞いたことがなかった。霞ヶ浦アカデミーで夜間に魚道を観察する申し入れをすれば、計画が動き出すのではないかとこの目論見もあった。

理事の伊藤秀真さんがさっそく河川事務所波崎出張所の遠藤所長を訪ねたところ、夜間の魚道の運用が始まっていることがわかった。観察会は可能かもしれないという話だった。シラスウナギは2月、3月に多くがのぼってくるのですべてに時期が遅く、またコロナの感染爆発が問題になっていたのも、観察会は来年に向けて準備することになった。

12月になり、遠藤所長と改めて話をし、2021（令和3）年2月には伊藤さんが中心となって申請書を河川事務所に提出する運びとなったが、3月になって、2022（令和4）年度から運用段階になる（おそらく完全に自動運転になるということだろう。決定から実施までに3年かかったことになる）ので、その時に検討するとの返事をもらい、また1年以上延びることになってしまった。

霞ヶ浦河川事務所とのかかわり

常陸川水門とその魚道は国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所が管理している。魚道の撮影には、河川事務所との関係作りが欠かせない。

2018（平成30）年11月1日に霞ヶ浦アカデミーは「行方市ふれあいまつり」に出店しカヌー教室および漁業体験を行なった。偶然となりのブースに霞ヶ浦河川事務所が出店していて、理事の額賀勝男さんが声をかけた。霞ヶ浦アカデミーでは常陸川水門と魚道の見学を考えていて、この件を相談したところ、できそうな感触を得た。2019年9月22日に見学が実現した。前述のようにこの後から本格的に魚道の観察会計画が動き出すことになる。

次回、
魚道の撮影はできるのか……？

連載 第6回

野草キッチン ～夏に美味しい ナンバーワン野草～

森林インストラクター
山菜ソムリエ
山田 証

日本全国の野草を食べながら旅をする、山菜ソムリエの山田証です。霞ヶ浦アカデミーの皆さんとも、野草やドングリといった、自然の食べ物に触れ合うイベントをさせていただいています。ほとんどの食べ物が、流通経路でやってくる現代。食料難、防災意識が高まっているこの時代では特に、身の回りの自然のものの活用が大切だと感じています。今回は、夏しか食べられない、僕が全野草中ナンバーワンの美味しさとさせていただいた野草を紹介します。ペニバナボロギクです。写真のような特徴的な花

を咲かせるので素人でも見分けやすく、本当に美味しい野草だと思います。僕はYouTubeの企画で今まで食べた中で最も美味しかった野草のランキングを付けてみたことがあるのですが、ペニバナボロギクを堂々の一位とさせていただきました。そのくらい美味しいのに、あまり知られていない野草です。ペニバナボロギクは、アフリカ原産の野草で、都市部でよく見かけます。夏の暑い時期に花を咲かせ、柔らかい部分だけを摘み取って、汁物などの具にします。まるで高級な春菊のような味わいがあり、

一度食べると忘れられない味です。ボロギクという名前の由来は諸説あるようですが、綿毛をつける姿がボロをまとったように見えるから、という説があります。同じようにこのボロギクの名前を冠するものは、日本では、ダンボロギク、ノボロギクです。ノボロギクは、ピロリジンアルカロイドという毒成分が含まれていることから、毒草として紹介されていますが、僕は実は昔は、ノボロギクを好んで食べていたのです。いつの頃からか毒草と紹介されるようになってしまい、自由に食べられなくなって、残念に思ったのを覚えています。実は、ノボロギクに限らず、多くの野草にはピロリジンアルカロイドが含まれており、肝毒性があるのです。大量に食べること

で肝中心静脈血栓症や肝癌を引き起こす可能性が指摘されています。これはフキやツワブキがアク抜きが必要な理由でもあるそうです。どんな野草であつても、大量に食べることはNGということですね。毒草ではありませんが、美味しすぎて大量に食べてしまいがちなペニバナボロギク、どうか十分に気を付けて楽しんでください。ペニバナボロギクの見分け方と食べ方の動画をQRコードからリンクしていますので、良かったらご参考下さい。

ペニバナボロギク

※ 野草の見分けや採取、調理や摂取は自己責任にて、お願いします。



編集後記

今号は「大学生が動く、地域と自然のあいだ」という特集を組み、若い2人の事例を学ばせていただきました。霞ヶ浦の自然環境をどう守り、どう活かしていくか考えていくときに、次の世代が何をしているか、しようとしているかを学ぶことは有意義ではと考えて、今回の企画に至りました。前号を編集する前からこの企画を温め、準備をしてきて、こうやって編

集を終えられとても嬉しいですが、全体を通して読みやすい号にできたかと自負しています。今回もたくさんの方に関わっていただき、海夫通信53号が完成したことに感謝です。この場を借りて御礼申し上げます。あと、今号は久しぶりの12ページになっています。いつもより4ページ多く、読み応えたっぷりです。

(菊地章雄)



海夫通信では、掲載する原稿・写真を、みなさまから募集しています。昔の霞ヶ浦の様子や、庭にいた珍しい生き物、お気に入りの自然スポット、本の感想などテーマを問わず原稿をお寄せください。



公益財団法人 本田記念財団

この活動は本田記念財団の助成金を受けて行っています。

発行 NPO法人霞ヶ浦アカデミー

発行日 2026年8月31日

事務所 茨城県行方市浜370番地1

ホームページ <https://k-acad.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/kasumigauraAC/>

メールアドレス kasumigaura.academy@gmail.com